

令和3年度 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会
第2回会議 議事要旨

- 日時 令和3年(2021年)8月24日(火)18時00分～19時00分
- 場所 ZOOMによるWEB会議及び第二庁舎3階大会議室(事務局は第二庁舎3階大会議室)
- 出席者 高橋会長、石川委員、山下委員、藤田委員、古川委員、重長委員、相馬委員
計7名
- 欠席者 吉村委員
計1名
- 事務局 榎本都市経営部長
都市経営部経営計画課：寺田、坂本、田中、島、久木、上田、松田
- 案件 1. 前回の振り返り
2. 答申案について
3. その他
- 資料 【資料1】第1回豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会 議事要旨
【資料2】豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の検証について(答申案)

会議録 下記のとおり

記

●開会

●成立要件の確認

事務局

豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会規則第6条第2項の規定により、委員の過半数の出席を必要としていますが、本日は委員総数8名中、7名の委員の出席をいただいておりますので、成立要件を満たしております。

●資料の確認

(事務局より配布資料について説明)

会長

それでは、案件1「前回の振り返り」について、事務局から説明してください。

●案件 1. 前回の振り返り

(事務局より「【資料 1】第 1 回豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会 議事要旨」をもとに説明)

会長

ただいまの説明について、質問・意見はございませんか。

委員

今回の転出入アンケートは非常に良い取組みだと思います。色々な情報や、市民の方が考えていることが分かりますので、是非推進していただきたいと考えています。質問数は増やしすぎると回答者の手間も増えますので、これぐらいが適当だと思います。また、QRコードを読み取ることが難しく回答を避けてしまう方もいらっしゃると思うので、タブレットを備え付けるなど、気軽に回答していただける形をとることで回答者の母数を上げることができれば、さらに市政における気付きなどに繋がるとと思います。是非継続していただければと思います。

会長

今回でこの委員会は2回目になります。答申を出すことによって、来年度の予算要求なども含めて市役所のスケジュールが動いていくことになりますので、この答申案について皆さんからご意見を頂戴したいと思っております。

次に、案件 2 「答申案について」事務局から説明してください。

●案件 2. 答申案について

(事務局より「【資料 2】豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の検証について(答申案)」をもとに説明)

会長

ただいまの説明について、質問・意見はございませんか。

この答申を9月末までに完成させたいと思っております。本日委員の皆さんからご意見を頂き、整理を進めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

委員

1点気になった点がありましたので、修正をご検討頂ければと思います。1の進捗状況についての第2段落7行目ですが、「このことから、市民満足度を高めることで転入増の要因に繋がる可能性が高い」というところがわかりづらいので、「このことから、市民満足度を高めることが転入増に繋がっていく可能性が高い」など、再検討いただければと思います。

会長

「機会があればもう一度豊中市に住んでみたい」とアンケートで回答されている市民の方が多いですが、その理由についてもこれからのアンケートで聞いていきたいところだと思います。

委員

コロナに関して、計画の1年目の数字としては人口や仕事に関して大きな影響がなく進捗したことは良いことだと思いますが、今年度に関しては深刻な危機感を感じています。1の最後の文章の「今後も新型コロナウイルスの影響を注視しながら」や、2の最後の「今後も引き続き」のあたりに、危機感をもう少し入れてもいいのではないかと思います。就労支援で協力してくださっている企業も、ここからが大変な状況だと思うので、そのあたりの危機感を入れても良いと思いました。

会長

「新型コロナウイルスの影響を注視しながら」とは入っているものの、少し表現として弱いということですね。

委員

「新型コロナウイルスの影響が考えられるので」というような表現が良いと思います。

委員

市政に携わる方へのお願いです。会長からも転出される方は豊中市に良い印象を持っている人が多いというお話があり、答申案にも関係人口が重要だということが記載されています。今はSNSが発達していますので、口コミの力は非常に大きいと思っています。SNSで市の良いところをPRしてくれるという意味では、市民や、元市民が鍵になってくると思います。以前、流山市の話をこの場でさせていただきましたが、転出した人がPR役になり得るということ意識していただければと思います。

会長

第3段落のところには、関係人口への対応についての記載があります。転出された方も関係人口の1人だと考えると、その方たちに積極的に市の良い部分を発信していただきたいと思っています。そして、機会があればもう一度豊中に戻って来たいと思っている方たちが常に豊中のことを意識していただければありがたいと思います。転出する方は沢山いるため、フォローするのは大変だと思いますが。

委員

第2段落にありますように、転出入アンケートについては、より多くの人から回答していただくことで市政に有効活用できると思いますし、母数を増やすことによって今後の市政も変わっていくと思います。

会長

アンケートは今後政策に活かしていくことのできるものだと思いますので、工夫を重ねなければいけないと思います。

また、関係人口への対応を答申の中に入れるということは、行政側からすれば重い意味を持つことだと思います。例えば、観光を例に取り上げると、住民だけではなく、観光客にとって訪れやすい場所であること、またわかりやすく文化を提供するということも必要になるので、住民以外の人のための計画でもある、というお話をある行政の委員会でしたことがあります。その時の行政の方の反応はあまり良くなく、行政の計画というものは基本的には住民のために作られる性質のものなのだと感じました。関係人口にあたる人と連携し、地域の活性化を図るということは、最終的には地域住民の方にとってプラスになり、それは住民以外の方を計画の対象にしていくことと同様の意味合いを持ちます。こういったことにチャレンジし、良いやり方を見つけていくことができると、他の自治体の見本となり得ると思います。

先日、阪急電鉄の役員の方とお話をする機会がありました。阪急沿線のブランドは、住民の皆さんと阪急電鉄との Win-Win の絆がうまく形成されているからだという話になりました。阪急電鉄は、住民生活に密着した価値を提供し続けてきており、地域の住民はロイヤリティが非常に高い。このように互いに Win-Win の関係となり、阪急は自らの沿線の価値を高め、地域住民は満足度が高まり、機会があればもう一度住んでみたいということに繋がるのだと思います。豊中市役所の頑張りだけではなく、阪急電鉄をはじめとした民間企業等を巻き込んでいくことが、住民の満足度を高めることに繋がっていくのだと、阪急電鉄さんとのお話も思い出しながら感じました。

本日いただいたご意見を含め、答申案を整理し、まとめていきたいと思います。本来であれば、整理しなおしたものをご確認いただく場を設けるべきですが、答申を市長にお渡しして来年度に活かしていただくことを考えると時間の問題もあるため、今回いただいたご意見を私にご一任いただき、まとめをさせていただきたいと思います。委員の皆様、よろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。答申案が完成しましたら、委員の皆様にお送りしたいと思いますので、よろしく願います。

最後に案件3「その他」について、事務局から説明してください。

●案件3その他について

事務局

連絡事項が1点ございます。

(連絡事項の伝達)

事務局

(挨拶)

会長

本日の案件については、すべて終了いたしました。これをもちまして、第2回豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会を閉会します。

ありがとうございました。

●閉会

以上